

1. 相 坂 養 魚 場

A. 水 田 養 鯉 試 験

I 試 験 目 的

最近，低毒性の薬剤開発により水田養鯉も可能な状況となったので減反による農業転換期を迎えている折柄水田を利用して生産をあげるための基礎試験を行う。

II 試 験 内 容

1. 期 間 昭和52年6月9日～昭和52年9月13日

2. 場 所 県立三本木農業高等学校実習田

3. 担 当 者 養魚場長 三 田 治

4. 調 査 項 目 生残率，成長

5. 調 査 方 法

(1) 供試魚：本場で51年春に生産したクロゴイ300尾を供試魚とした。平均体重4.0g（総重量1.2kg）

(2) 試験田：面積792m²，苗植付月日は昭和52年5月27日

(3) 方 法：昭和52年6月9日から9月13日までの99日間試験田で放養飼育を行なった。

この間の総給餌量は2.5kg（マス用配合餌料）又，放養は除草剤使用後2週間たってから始めた。

III 試験結果及び今後の課題

取 揚 げ 月 日 昭和52年9月13日

取 揚 げ 尾 数 236尾（歩留り78.6%）

1尾平均体重 45.3g

今回の試験は放養尾数も少ない上に，試験田が距離的にも遠い関係もあって詳細な資料を得るに至らなかったが今後は対照区を設けて米の増収量との関係等について調査し，今後の水田の利用法について指針を得たい。

B. ペリヤジ 飼 育 試 験

I 試 験 目 的

ソ連産のペリヤジを本県の特産物として産業的に定着させる目的で試験を実施する。

II 試 験 内 容

1. 期 間 昭和53年3月27日～53年4月15日

2. 場 所 相坂養魚場
3. 担 当 者 養魚場長 三 田 治
主 研 金 沢 宏 重
業 務 員 松 田 毅
〃 松 田 銀 治
4. 調 査 項 目 ふ化率，ふ化仔魚飼育
5. 発眼卵導入先 ソビエト社会主義連邦共和国

III 試 験 結 果

発眼卵収容月日：昭和53年3月27日

発眼卵収容卵数：50,000粒（卵径2.1mm，卵重5.6mg）

収容時ふ化槽水温12.5℃

到着時の成績：良好（死卵少なし）

防 疫 対 策：ウイルス検査は東水大に依頼した他，収容時にヨード剤で消毒した。

ふ 化 開 始：4月1日

ふ 化 終 了：4月15日（ふ化率約85%）

初期餌料として4月11日より3月18日までシオミズツボウムシ（水産増殖センターにおいて培養）その後はワムシ，ブラインシュリンプ混合，ブラインシュリンプだけ，ブラインシュリンプとマス餌付混合，マス餌付序で給餌の予定である。

種 苗 生 産 配 付 状 況

項 目 \ 魚 種	ニジマス	ヤマメ	スギノコ	イワナ	マゴイ	イロゴイ
採 卵 開 始	5 2. 8. 4	5 2. 1 0. 1 1	5 2. 1 0. 1 1	5 2. 1 1. 1 0		
使 用 親 魚 類 尾	(♀) 2, 841	(♀) 1, 205	(♀) 75	(♀) 126		
採 卵 数 粒	5, 013, 582	471, 167	20, 985	188, 011		
発 眼 卵 数 粒	4, 171, 032	408, 812	8, 773	145, 174		
発 眼 率 %	83. 2	86. 8	41. 8	77. 2		
発眼卵配付数粒	3, 799, 000	262, 000		80, 000	40, 000	75, 000
稚 魚 配 付 数 尾					518, 900	36, 240